

### ■開催概要

- 大会名称 : 2024 鈴鹿クラブマンレースFinal Round
- 主催 : 中日本自動車短期大学レーシングクラブ (ARCN)・鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : ARC、AASC、KRHC、ARCN、チーム淀、OCCK
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会 (FEクラス)
- 競技 : JAF公認・準国内競技
- 会場 : 鈴鹿サーキット レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : 総参加台数/200台
  - スーパーFJ日本一決定戦.....53台
  - VITA .....36台
  - フォーミュラEnjoy.....24台
  - v.Granz .....16台
  - FIT 1.5.....21台
  - N-ONE.....50台
- 開催日 : 2024年11月30日(土)、12月1日(日)
- 天候・路面 : 曇りのち晴れ・ドライ/11月30日(土)、  
晴れ・ドライ/12月1日(日)



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2024/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2024/clubman/)

※2024年鈴鹿クラブマンレースは、この大会でシリーズ全日程を終了いたしました。  
2025年の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いたします。



N-ONEは全国から50台のエントリーを集め最終戦が行われた

## 泣いても笑っても、これが2024年最後のレース すべてのレースでチャンピオン、日本一の座が競われた

全5戦で競われる、2024鈴鹿クラブマンレースの最終戦が、鈴鹿サーキットのフルコースで開催された。

例年ならば、最終戦は寒さとの戦いとなり、それも「凍えるような」という表現もつけ加えがちだが、11月29日(土)も12月1日(日)も時折冷たい“鈴鹿おろし”こそ吹いたものの、上空には青空が広がる小春日和となって、寒すぎないコンディションとなっていた。

鈴鹿クラブマンカテゴリーの各レースは、いずれもこの最終戦を前にしてチャンピオンが決まっておらず、いわば、タイトルの“争奪戦”となったわけだが、順当に決まったレースもあれば、まさかの展開による大逆転での決定もあり、極めてドラマティックなレース模様となっていた。

また併催のスーパーFJ日本一決定戦とN-ONE OWNER'S CUP FINALは、ともに全国から精鋭たるドライバーが集まった、文字どおり日本一のスーパーFJ、N-ONE使いを決める一戦となり、覇者には惜しめない声援と拍手が贈られていた。



スーパーFJ日本一決定戦が行われた。全国から53台の精鋭が集まり、白熱したレースが展開された。  
写真は優勝した#8岡本大地

### ■スーパーFJ日本一決定戦～セミファイナル

スーパーFJ日本一決定戦は、例年どおりトーナメント形式で行われ、予選とセミファイナルは2組に分けて競われた。A組の予選トップは、今やスーパーFJの主ともなった岡本大地が獲得。セミファイナルでも鈴鹿・岡山シリーズのチャンピオン、迫隆真を寄せつけず、逃げ切りを果たしている。B組の予選トップは豊島里空斗。しかし、セミファイナルではもてぎ・菅生シリーズのチャンピオン、小田優がスタートでトップに立ち、そのまま逃げ切りに成功。豊島はYUTA SUZUKIにもかかわされたばかりか、スタート手順違反のペナルティで、ドライビングスルーを課せられて下位に退いた。なお、B組はレース中にセーフティカーが導入され、アベレージタイムでA組に劣ったため、岡本がファイナルのポールポジションも獲得した。

### ■スーパーFJ日本一決定戦～ファイナル

フルグリッドとなる50台が並んだ様子は、まさに壮観の一言！ 注目のスタートを決めて、トップで1コーナーに飛び込んだのは岡本大地だった。これにB組トップの小田優が続いて、オープニングラップのうちに3番手以下を引き離す。しかし、その小田ですら、2周目からは徐々に遅れをとるように。過去何度もトラブルで日本一の称号を取り逃がしている岡本だけに、「マシンを守る方向で、マシンの心配ばかりしていました。最初にマージンを作った後は」と言うが、小谷「限界でした」と語らせたほど。逃げ切った岡本はスーパーFJ参戦8年目にして悲願を叶えることになった。3位は加納康雅で、5番グリッドからスタートで1台、1周目のうちにもう1台を抜いていた。ジェントルマン賞は総合26位の山根一人が獲得。



文字通り日本一決定戦に相応しいレースが展開され、見事栄冠を勝ち取った#8岡本大地

## ■スーパーFJ class



1位、岡本大地、2位は小田優、3位に加納康雅となった。参戦8年目の岡本は悲願の優勝を手にした

## ■スーパーFJ class ※ジェントルマンクラス



1位は山根一人、2位は上吹越哲也、3位には中嶋匠。クラブマンシリーズに参戦する山根が優勝した

## ■N-ONE OWNER'S CUP FINAL

ポールポジションは「先頭で出ていってクリアラップも取れて、タイヤのいいところでアタックできました」と語る川福健太が獲得。2番手にはランキングトップの岩間浩一がつけた。決勝では川福に岩間、そして昨年のチャンピオン、阿久津敏寿が続き、いずれも王座獲得経験を持つドライバーでトップが競われた。1コーナーで発生したアクシデントにより、3周目にはセーフティカーが入るも、リスタートも完璧に決めた川福は、差を詰められるどころか、むしろ広げること。最後までトップを守り抜き、「今年はなかなか勝てなかったの、最後に勝てて良かったです」と川福。だが、4回目のチャンピオンを2位の岩間が獲得、「夏頃まで全然出られなかったの、獲れるなんて全然思っていませんでした」と素直な胸の内を述べていた。



50台のエントリーを集めたN-ONE OWNER'S CUPは、川福健太がポールポジションを獲得した



1位は川福健太、2位の岩間浩一がシリーズチャンピオンを獲得、3位には阿久津敏寿が入った

### ■VITA Class RACE 1

4回目の王座獲得を目指し、王手をかけて臨んだ中里紀夫ながら、予選は3番手に。ポールポジションを奪ったのは“最強のVITA使い”の徳升広平で、2番手にはオールラウンダーのHIROBONがつけた。今回は2レース制で、レース1は順当に徳升が制覇。2回もセーフティカーが入る波乱の展開にも、そのつどリスタートを決めて後続の接近を許さず。「無事に終わって良かった。レース2はリバースグリッドですけど、行くしかない!」と語ったのは徳升。一方、中里は最後まで坂野貴毅と増本千春の猛攻を受けるも辛くも振り切って、レース2を待たずしてタイトルを収め、「良かった、ホッとしました。レース2は全然気楽に行けます」と、レース後には安堵の表情を見せていた。ジェントルマンクラスは総合8位の鍋谷武が優勝。



ポールポジションは“最強のVITA使い”と称される徳升広平が獲得、4回目の王座を狙う中里紀夫は、3番手からのスタートとなった



ポールtoウィンを決めた徳升広平、2位に中里紀夫が入りシリーズチャンピオンを決めた。3位には坂野貴毅が入った



■VITA Class RACE 1 ※ジェントルマン・クラス



ジェントルマン・クラスは、総合8位の鍋谷武が優勝、2位に山本龍、3位には大野宗が入った

## ■VITA Class RACE 2

午後からのスタートとなったレース2は、レース1の結果に基づきトップ6がリバースグリッドに。「レース2でポールになるため」、あえてレース1で6位に退いていたHIROBONが、念願の位置からのスタートとなった。3回もセーフティカーが入る大波乱の展開で、最後は先導されたままチェッカーが振られることに。その中でHIROBONが逃げ切って優勝を飾るも、最後の1周だけでもバトルが繰り広げられていれば…。というも、6番手からスタートしていた徳升が、HIROBONの背後にまで迫っていたからだ。「最初に逃げて、しばらくしたら『もういるやん!』って」と苦笑いするHIROBONに対し、「(2回目の)セーフティカー明けに、一発で仕留められなかったのが…」と徳升は悔しそうに語っていた。ジェントルマンクラスは鍋谷武が2連勝で、総合でも6位に。



レース1の結果に基づき、トップ6がリバースグリッドにとなりHIROBONがポールポジションからスタート。



表彰台の頂点に立ったHIROBON、2位は徳升広平、3位に増本千春が入った。



■VITA Class RACE 2 ※ジェントルマン・クラス



総合6位に入った鍋谷武が2連勝を決めシリーズチャンピオンを獲得。2位に山本龍、3位にはGAMISANが入った

## ■フォーミュラEnjoy Class

前回のレースで初優勝を飾った吉田英翔が、勢い保って2戦連続でポールポジションを獲得。「ここまで狙いどおりですが、レースは何が起るかわからないので、自分を信じて走ります」と吉田。決勝でも、そのままの速さが維持され、2位の樋尻勝利に7秒6差の圧勝に。「誰かにタイムペナルティが出ていて、もし自分だったらと思って、5秒稼ぐ走りに切り替えました。違いましたが(苦笑)」と吉田。一方、チャンピオンは7位でゴールの中島一郎が獲得し、「守る気はなかったんですが、エンジンの調子があまり良くなって。苦労した分、嬉しいですね」と語っていた。マイスターズクラスは予選トップだった亀蔵が、1周目のアクシデントでリタイアを喫し、安橋徹が初出場にして、初優勝を飾っている。



吉田英翔が2戦連続でポールポジションを獲得、レースは他を寄せ付けない圧勝を見せた



ポールtoウィンを決めた吉田英翔、2位に樋尻勝利、3位には村瀬賢二が入った

### ■v.Granz Class

今回がレースデビューとなる、19歳の富田星羅がポールポジションを獲得。決勝ではスタートに出遅れ、予選3番手の関正俊の先行を許す。1周目だけで富田を1秒離れた関だったが、富田は2周目にファステストラップを記録して近づき、4周目のストレートでトップを奪い返す。一方、ランキングでトップの関は、3ポイント差で追うOOKAより前でゴールすれば、2連覇が決まる。それなのに…。ヘアピンで関は後続車両に追突されて、大きく順位を下げてしまう。これで富田が大量のリードを築くとともに、金久憲司と大山正芳、植田正幸が2~4番手に浮上。6周目に金久がスピンで順位を落とし、植田は大山をパス。結局、4位のOOKAがチャンピオンを決め、富田がデビューウィンを達成した。「来年はこのクラスとMEC120に出ます」と富田。



今回がレースデビューとなった富田星羅がポールポジションを獲得。ランキングトップの関正俊は予選3番手につけた



19歳の富田星羅がポールtoウィンを決め、ベテランの植田正幸が2位に、大山正芳が3位に入った

### ■FIT1.5 Challenge class

悲願のタイトルに王手をかけた清水悠祐は予選2番手。その前に立ちはだかったのが、関東から今季2度目の遠征となった太田侑弥だ。スタート直後、さらに6周目にもセーフティカーが入り、2回目は赤旗中断となるも、最初のスタート、さらには中盤のレース再開後も太田は誰も寄せつけない。「鈴鹿の優勝は嬉しいですね、ちょっと印象が違います」と太田。一方、デグナーでシフトミスがあり、4周目に貴島康博の先行を許していた清水だったが、ランキング2位のKAKEYANが最後は背後に。しかし、しっかり押さえ抜いてチャンピオンを獲得。「いやぁ、いろいろ苦労もあったので、メカさんには感謝しかありませんね、二人三脚でやってきたので。今年は1勝して毎回表彰台で、運が良かったです。ボーナスみたいなもん」と清水はしみじみと語っていた。



スーパー耐久でも活躍する太田侑弥がポールポジションを獲得、タイトルに一番近い清水悠祐は予選2番手



終始安定した走りで優勝した太田侑弥、2位に貴島康博、清水悠祐が3位に入りタイトルを獲得した

## ■2024 イヤーエンドパーティー & v.Granz VITAシリーズ表彰式

この日、全レース終了後、ピットビル2Fのラウンジにて、「2024 イヤーエンドパーティー & v.Granz VITAシリーズ表彰式」と「2024 スーパーFJ日本一決定戦表彰式」がそれぞれ開催された。



選手、関係者が集まり和やかな雰囲気の中、イヤーエンドパーティー & シリーズ表彰式が開催された



福山英朗氏の進行で、VITA、v.Granzの各シリーズ戦の表彰が行われた。選手はトロフィーや副賞を手に笑顔が絶えなかった

## ■2024 イヤーエンドパーティー & v.Granz VITAシリーズ表彰式



パーティーの最後は、参加者全員での集合写真の撮影も行なわれた

## ■2024 スーパーFJ日本一決定戦表彰式



スーパーFJ日本一決定戦表彰式も隣接するラウンジで同時進行により行われた。

## Voice of Pick up Driver & Team

この日、キラリと光った  
ドライバーに問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに問一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

v.Granzでチャンピオンを獲得！

OOKA 選手 (G-TECH)



フォーミュラEnjoyのウィナー、吉田英翔。初優勝の喜びを爆発させた

**Q:おめでとうございます。昨年の耐久(MEC 120)に続いて、スプリントでも獲りましたね。**

「本当にありがとうございます。関(正俊)さんが何か遭われたみたいなので、本当に棚からぼたもち的な感じなんですけど。来年はきちっと優勝して、また狙っていきたいと思っています」

**Q:走りにも落ち着きが感じられましたが。**

「いや、でも、スタートを思いっきり失敗して(笑)。『まだまだだな』って思っていたのに、気づいたら4位になっていて、上出来だねと。スタートはいつも失敗しているんですよ、下手なんです」

**Q:そのあたりは連覇に向けて、今後の課題ですね。**

「そうなんです。ちゃんと練習して、来シーズンはうまくできるように頑張ります！」